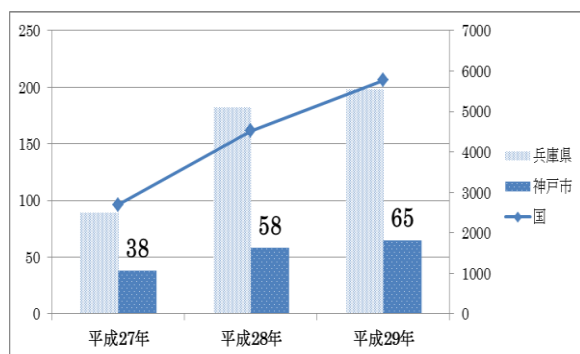


梅毒患者の報告が全国で、
また神戸市でも増加しています！



男性、女性ともに20代～30代からの報告が増加しており、今後先天梅毒の赤ちゃんの出生増加が懸念されます！

市内でも妊娠中の妻が夫から感染し、胎児への影響が心配される事例の報告がありました。妊娠中の性行為、また性感染症は赤ちゃんへの影響があることを知り、感染予防に努めましょう。

梅毒とは

梅毒トレポネーマにより引き起こされる全身性の疾患です。ペニシリンなどの抗生物質が有効ですが、治療しないと症状は進行して、最終的には死に至ることもあります。

また、妊婦が梅毒に感染していると、胎盤を通して胎児に感染し、死産、早産、新生児死亡、奇形が起こることがあります。（先天梅毒）

★ **感染経路** 感染部位と粘膜や皮膚の直接接触（**性的接触**）により感染します。

具体的には、性器と性器、性器と肛門、性器と口の接触が原因となります。

★ **症 状** 感染後、経過した期間によって症状が異なります。

梅毒は経過の中で症状が消失する時期がありますが、治ったのではなく、症状は進行していきます。

【感染後約3週間】

性器や口唇などの感染部位にしこりが生じ、股の付け根の部分（鼠径部）のリンパ節が腫れることがあります。

【感染後数か月】

「バラ疹」と呼ばれる全身性発疹や、全身のリンパ節が腫れるほか、発熱、倦怠感、関節痛などの症状がみられることがあります。

【感染後数年～数十年】

皮膚や筋肉、骨などに腫瘍（ゴム腫）が生じたり、脳、脊髄、血管が侵され死に至ることがあります。

感染を予防するために

不特定多数の人との性行為を避けることが基本になります。

コンドームを正しく使用することが大切ですが、コンドームで覆わない部分の皮膚や粘膜に梅毒の症状があると、コンドームでは予防できない場合があります。

お互いに感染しない・させないためにパートナー同士の感染有無の確認が必要です。

感染初期にみられる「しこり」は痛みなどの自覚症状がないため、感染していることに気づきにくいのです！

神戸市の検査について

梅毒は感染当初検査に反応しない時期があります。正しい検査結果を得るため、**感染が心配な出来事から2ヶ月後以降**に検査を受けましょう。

三宮センタープラザ西館6階会議室（毎週水曜日 18時～20時）、健康ライフプラザ3階（月1回指定木曜日 15:00～16:00）にて**梅毒の無料・匿名検査を実施しています**。（結果説明は1週間後）

<http://www.city.kobe.lg.jp/life/health/infection/aids/aidsyakan.html>

すでに皮膚や粘膜にしこりやただれがある場合には、性的接触を控え医療機関（皮膚科、感染症内科、泌尿器科、婦人科等）を受診しましょう。